

■ 日本の外国人コミュニティ ■

あれから10年 ベトナム人 in KOBE

Ha Thi Thanh Nga

[ハ・ティ・タン・ガ]

■ NGOベトナム in KOBE代表

日本には約1万人のベトナム難民やその家族が住んでいるが、コミュニティらしいものはあまりないようだ。一番その形態に近いものは、各地方にあるカトリック共同体だろう。神戸でも、阪神・淡路大震災の7年前から愛徳姉妹会という修道院がベトナム人の子どもたちに勉強を教えていた。

震災当時、神戸では734人のベトナム人が住んでいたが、震災がきっかけで弱者、すなわち高齢者や障害者、母子家庭、外国人らが抱える問題が目立つようになり、彼らを支援する団体がたくさんできた。被災ベトナム人救援連絡会もそのなかの一つだった。

大震災など、多くのベトナム人はまず体験したことがない。当時は混乱のなか、情報は日本語でしか来ない。しかし、全国から多くのボランティアが神戸に来てくれ、なかにはベトナム人もいた。まず、緊急の情報をキャッチし、翻訳してベトナム人被災者に伝える。事務手続き、申込みの

手伝い、情報提供、生活相談、翻訳・通訳など、ボランティアの存在はなくてはならないものだった。言葉の壁や日本のシステム、文化、習慣、考え方の違いなどから、さまざまな問題が起きたが、多くの方がベトナム人を支援し、それらを解決へ導いてくれた。

翌年、神戸定住外国人支援センターが発足し、私はベトナム人支援専用スタッフとなった。その流れを受けて今はNGOベトナム in KOBEの代表をしている。私たちのNGOでは、在日ベトナム人支援（高齢者支援、生活相談、青少年支援、紙芝居会、母語教室、ベトナム語の図書館の設置、伝統行事の開催・維持）や、ベトナム文化を日本の人々に伝える活動（文化理解講座、ワークショップ、講演、セミナー、情報提供）などを行なっている。震災というたいへんな出来事のなかで生まれた組織ではあるが、いまや神戸だけではなく全国から問い合わせがあり、なくてはならない存在になっている。



ハ・ティ・タン・ガ ベトナム出身。1981年インドシナ難民として来日。阪神・淡路大震災後、ボランティア活動にかかわり、97年神戸定住外国人支援センター勤務。2001年NGOベトナム in KOBE発足、2003年4月から現職

子どもたちを対象にしたベトナム語の母語教室。母国の文化を伝えるために、在日ベトナム人支援のなかでも重要な活動だ

写真提供：筆者